

(別記)

## 大口町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域では水稲と麦・大豆の生産が盛んであり、一部の地域においては飼料用米、備蓄米、景観作物や露地野菜が作付されている。しかし、農家の高齢化が進んでおり後継者不足が懸念される。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需給減が見込まれる中、飼料用米を麦・大豆に次ぐ転作作物に位置付ける。飼料用米の生産拡大に当たっては、コンタミ防止のために主に主食用品種での対応とし、30年度には37haの生産を目指す。

##### イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成25年度から取り組みをしている。30年度には4haの生産を目指す。

#### (3) 麦、大豆

麦については、産地交付金の産地戦略枠を活用し、GAP作成による生産性及び品質向上の取り組みを推進していく。実需者の要望に即し生産していく中で、30年度における麦の作付面積は65haとする。

大豆については、排水対策、難防除雑草対策の技術普及を図り、30年度における大豆の作付面積は15haとする。

#### (4) 野菜等の高収益作物

野菜、花き(花木、種苗を含む)、果樹に対し、産地交付金の産地戦略枠を活用し生産性向上及び栽培面積の維持拡大を図る。

#### (5) 地力増進作物

地力増進作物全般を振興品目とし面積は現状維持とする。

#### (6) 不作付地の解消

景観作物等の作付等を推進し、不作付地の解消に努める。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	184	181	173
飼料用米	35	35	37
米粉用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	3	3	4
麦	61	63	65
大豆	15	15	15
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	26.9	28.1	30
野菜	8	8	8
景観形成	5	6	6
果樹	0.5	0.6	1
花き（花木・種 苗含む）	0.4	0.5	1
地力増進作物	0	0	1
その他	13	13	13

### 4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	大麦	担い手・高付加価値化の取組	ウ	実施面積	41	43	45
2	高収益作物	農業・農村の所得向上の取組	ア	実施面積	8.9	9.1	10
3	大麦 (二毛作)	担い手・高付加価値化の取組	ウ	実施面積	20	21	22
4	大豆 (二毛作)	担い手・高付加価値化の取組	ウ	実施面積	3	4	5

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2（6）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度（目標値）」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、（ ）内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり